

Move Mountains

5年生通信

7月5日41号



○「われは草なり」

「詩」の授業ってどんなイメージでしょうか。

私自身が小学生の時に授業を受けた記憶は

・何となく音読して ・何となく感想を書く

くらいの覚えしかありません。

私は「詩」の読解こそ国語の本質が詰まっているように思います。

・短い ・表現技法が豊かに用いられる ・語彙が豊か ・情景を想起しやすい

など、短いからこそ集中して読み解いていくことができます。

今回の教材は「われは草なり」／高見順 です。

まずは、何度も音読していきます。特にこの詩は、リズムがよく音読に適しています。

「口に覚えさせる」と言います。明治時代くらいまでは音読＝読書でした。

繰り返し声を合わせながら、リズムに乗りながら、時には「たけのご読み」で譲り合いながら、「みんなで読む」ことは、学級の一体感を生み出すツールでもあります。

そして、そのまま書き写す視写をしながら暗唱もしていきます。

音読、視写、暗唱を通してどっぷりと「われは草なり」に浸っていきます。

ここまでは無意識といえますか、機械的な作業の繰り返しです。ここから深めていきます。

「思ったこと・気づいたことをノートに書いていきます」

自力読解の第一歩です。慣れていなければ、大人でも「う～ん」となります。

一人の力では限界があります。「分からない」で終わってしまうこともあります。しかし、集団で授業をして、みんなの考えを集結させることで気が付くことがあります。

われは草なり 高見順

われは草なり 伸びんとす 伸びられるとき 伸びんとす
伸びられぬ日は 伸びぬなり 伸びられる日は 伸びるなり

われは草なり 緑なり 全身すべて 緑なり
毎年かはらず 緑なり 緑の己れに あきぬなり

われは草なり 緑なり 緑の深きを 願ふなり

ああ 生きる日の 美しき ああ 生きる日の 楽しさよ
われは草なり 生きんとす 草のいのちを 生きんとす

いかがでしょうか。黙読よりも音読をおすすめします。リズムよく、特に4連の「ああ」から続く言葉たちから生きることの喜びを感じる、とってもいい詩です。

教室では、気付いてほしいところに気付いていて、とても感心させられました。

- ・草を人間に例える（草になりきっている）→**擬人法**
- ・昔の言葉で書かれている
- ・リズムが良い→**七・五調**で書かれているから
- ・八音のところがある→**破調**といって、あえてリズムを崩している
- ・**繰り返し**言葉を使っている

客観的に読んで気が付く、事実のところを読むことができました。もう少し突っ込んでみましょう。

- ・それぞれの連（詩の中にあるかたまり）を**漢字一字**でまとめましょう。
一連…伸 自 草 二連…緑 三連…深 草 願 四連…生 命
- ・作者が最も大切にしている、強調したい連はどれですか→**四連**
- ・作者が伝えたいことを「**～の大切さ**」でまとめましょう。
→命の大切さ 生きることの大切さ

命の力強さを感じる詩であることが分かりました。読み解くというのは、こういうことですね。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

